

地域住民等の多様な主体のもと、水路沿いのアジサイの植栽をはじめとした地域協働による取組の実施により、地域資源を活用した地域づくりを推進。

地区の特徴

- 江戸時代後期に造成された立梅用水は、かんがい用水としての機能に加え、多面的な機能を有していることから地域の人々の暮らしに役立っており、アジサイの植栽等を通じた景観形成や用水路を活用した地域の活性化に係る取組を多数実施。
- こうした取組により、地域の人々の理解が深まり、地域住民と土地改良区との協働による維持管理が評価され、H26年に国の登録記念物及び世界かんがい施設遺産に登録。



（出典：立梅用土地改良区）

農業農村整備事業との関係

【地域用水機能増進事業「立梅地区」(H10～H20)】

- ・ 田んぼ周りや立梅用水沿いへのアジサイの植栽活動のほか、用水路には景観に配慮し間伐材を利用した安全施設を設置。

取組の内容

- ・ 多気町（旧勢和村）には、祖先の残した水や土、それを育んだ歴史や文化といった資源が多くあるが、S60年代には農業の近代化の中で人々の関心が希薄化。
- ・ そのような中、水路沿いにアジサイを植栽する取組が改良区と地域住民の協力でH5年に始まり、地域資源の良さを再認識させる活動が村内各所で開始。
- ・ 休耕田や用水路を活用した「あじさいまつり」（7,000人程度が来客）を開催するなど、「花・あじさいいっぱい運動」による交流を実施。各区ではボランティアを集い、年に数回アジサイの花落としや下草刈りを実施し、地域の景観形成や管理を実施
- ・ 「ふるさとの水と土を大切に」を合言葉に地域住民と改良区、行政、民間企業等、多様な参加主体が協働し、地域資源に係る様々な活動を行い「心豊かな里づくり」を推進。
- ・ 大勢の人がアジサイを見に訪れ、外部から評価されたことでやる気が起き、地域において様々な活動（用水開削の語り部活動等）が誕生。
- ・ 地域住民と地域資源を活用した町づくり事業を行い、農業・農村の活性化に寄与することを目的とし、「一般社団法人ふるさと屋」を設立。



あじさいまつり（ボート下り）
（出典：立梅用土地改良区）



あじさいまつり実行委員会
（出典：立梅用土地改良区）

取組主体

- 立梅用土地改良区、○地域ボランティア
- 多気町勢和地域資源保全・活用協議会 等